

## 1アマ資格者の推移とCWの醍醐味

JJ1SXA/池

第96号の原稿として、「続アマチュア無線局の推移調査」という、JA1WOB/斉藤OMの記事が届き、読ませていただき、参照して1アマ資格者の推移の分析です。

1アマのCW試験の経過は、下記のようになっています。

平成8年3月31日まで…欧文60字/分・和文50字/分の送受信

平成平成8年4月1日以降…欧文60字/分の受信

平成17年10月1日以降…欧文25字/分の受信

平成23年10月1日以降…実技なし(学科試験に含まれる)

以上のような経過をたどっています、CW試験が、逐次簡略化されたので1アマ資格者がどのくらい増えたのかという分析です。

和文CWの試験が無くなった、平成8年の1アマの人数は、前年の16,867人から一挙に1.878人増えて、18.755人になりました、1アマ取得には和文CWがネックだったようで、欧文CWだけならと挑戦者が殺到したようです、その後は年間約600人位の増加。

欧文60字/分の受信から、欧文25字/分の受信に変わり、平成18年には、前年の23,697人から988人増の24,685人になりました、やはりCW苦手者は多いようで、欧文60字/分の受信は無理だが欧文25字/分の受信ならと受験者が増えたのでしょう。

実技試験無しに変わり、前年28,127人から平成24年には、721人増の29,138人となり、昨年(平成27年)末には31,544人となっています、平成24年から平成27年までの3年間で2,406人、年間約800人増です、CWの実技試験が無くなったので、もっと増えるかと思ったが、それほど増えていません、4アマ局が、講習会受講で簡単に3アマを取得できるようになったのでそれで良しと満足している人が多いのかと思います。

私が1アマを取得した、1978年は7,334人で、年間約600人位増えるような傾向でした、SXBが1アマを取得した、1984年には11,036人で、1978年から1984年までの6年間で3,702人、年間約600人位増えた計算で、増加傾向は横ばい状態です。

過去に何度も言っていますが、欧文60字/分・和文50字/分の送受信、学科はオール筆記試験という難関をクリアした昔の1アマと実技試験無し、○×式の学科試験で合格した今時の1アマを同格に扱うなどというのは、私だけの意見では無さそうです。

今年のハムフェアでは「CWの里」のブースで縦振れ電鍵による送信術が競われていました、また、昨年までの「LET'S A1 CONTEST」の規約が、「第1回A1CLUB STRAIGHT KEY コンテスト」としてリニューアルされ、使用電鍵は、縦振れ電鍵又はその代替物に限定というのは変わりませんが、S-KEY係数というのを導入しました、コンテストログの使用等のPCに全面的に頼っているCW運用者の技術低下を嘆くOMさん達が考えたようです、コンテストログで過去のコンテストナンバーの予測値が出ないようにする工夫です、やはり、CWは自分の耳で聞いて解読、符号を一文字ずつ手打ちするのが基本であり、それがまたCWの醍醐味だと思います。